



中村俊定文庫
文庫 18
40



狗獮集卷第七

春

あて天下れまふらふ云

くおれまふらふ梅枝て天座

いしひらうらにけりも

西月のらうら老いさありて

屋のあともや枝葉

大あま枝葉しりふ梅花

吟はらあやめにはあはれ

あまのりにはうもれあはれ

小松枝をそむくあはれ

あまのりにはうもれあはれ



おみまはふれぬらと夕夕すそ日
 知もあはれぬら花はかた
 思ひ寄れ家成りりりり日
 かろとあひく時世成りり
 花はあつ松浦のまはかりりや日
 ららくそ花はあめりの中
 うまぬ花は霜そりりりり
 春乃小葉にさき風水風
 春乃あむむりりりりりりり
 山くろ花の夜くらなよ
 の花帯とあむりりりりりり
 花はと梅は春事あはれり
 春乃あひりりりりりりりりり

春乃あひりりりりりりりりり
 花はあつ松浦のまはかりりや日
 ららくそ花はあめりの中
 うまぬ花は霜そりりりりりり
 春乃小葉にさき風水風
 春乃あむむりりりりりりりりり
 山くろ花の夜くらなよ
 の花帯とあむりりりりりりりり
 花はと梅は春事あはれり
 春乃あひりりりりりりりりり
 花はあつ松浦のまはかりりや日
 ららくそ花はあめりの中
 うまぬ花は霜そりりりりりり
 春乃小葉にさき風水風
 春乃あむむりりりりりりりりり
 山くろ花の夜くらなよ
 の花帯とあむりりりりりりりり
 花はと梅は春事あはれり
 春乃あひりりりりりりりりり

去秋去より多かりし
お世々三月令と志願す

狗猫集巻之八

廿五

三ヶ月廿五

鳴きむら文彦

村西ふき六ヶ月

子規鳴けりて春然とちて年

てりし乃ほよそあふみ

一ヶ月廿五乃乃郭公

蛙乃あぬまのあま

源ありあり虫けり

檀乃浦あそむ礼を祈

いそりふ神あ費れお

あ海ありて歌歌歌

ましあまの味やむ

那くわくく地あり

虫乃けりあそむ

尾乃けりあそむ

堂火城あそむ

若くあそむ

あしあそむ

あしあそむ

しうれん今乃深もやうん
橋のくつさきあり少神きて

魁をわきれぬ人のあし
矢をさればいつちこむわくよま

もたありの人の意はあはれ
物舟よしかはつたさうのあひ

面まの神哉さうのい宿
庭庭よ牡丹れ花乃盛をそね

ちのちうりふあ流も浮あし
紅舟ゆくはちちの橋舞よ共ま

そよちうりてとあうに鳥鳴
ひさげんのうらう地ようれ集は

め東海原れ養試うつめ
夕影ありかよあそむひのぼ

橋乃下小六いそとあ
葛蒲とんが道とがれねぬ中

あふ小袋乃ねや海うん
とくけあうしれ花うあ流の

又糸のうらにひききこのまあ
夕影乃地よふあふく付れ

鬼とありあもあありそり
あうや薊の中れ眉繼り長

瓦波も塔乃まあり火つて
花とけりや築地といふあ

あ川原そあしあのたれ
清あひひく音柳うけ

二

高麗物もやけくうれ
高古乃山形よりけい二三文

椽人いさその東よ認集

ふん比試行ありまあり

物とりふ神よぬらひ持し

汗試う比法くう海あふあ

拵物い共一きあ海布衣

交う椽よやけりきれを

そひ何りぬるまの物れそ

あやうふ何くひちくうい

女乃りそ侍乳う多きれ

又海あも海屋試法まうえ麻

長刀拵くう海いきりひ

暑氣やむ人よまじ帯や吉

喝合ぬるめはさあくと

焼ふ乃うけはよう打祓あり

涼くも仰あう風よ肩ぬ

夏肌糸寒と縁もあうあ糸

秋よあうよりぬハ

秋川よ休もえうひ種うり

狗摺集巻第九

蝶

同じあうそ雲そあう

ひやけくう秋乃あうう海のき

大井乃里小あふ付にあり
垢をく種くさあく女は花

花一時乃あふりそす依
約款の目彩結まれば感んて

先や入日鼓すゆく舞付の
西山乃花うはれな花物珠

ふくみりあつ里にゆあ
落船を双ふらたあつまひ

来世小と妻あふる名物
麻帆是あそふる一あ人

是もたふつねる中風や
かひあふらるや終と秋の暮

終りら終まて海つまは袖
著るらり終合やそそあ人

娘八松極乃実感のむ人
月がる後のらりは終くひ終

あふあそくく曉乃風書
あふみと猫りあふ月うき

あふあふもさり終終あ書
月あはは乃ああ物うあ

あふあふあそくく終あ書
十七水十八夜そそ月あそ

あふあふあそくく終あ書
屋捲あ屋あそそ月乃りく日

あふあふあそくく終あ書
夕あひらひんる物あ人
あふあふあそくく終あ書
あふあふあそくく終あ書

くさくさ光枝よ海し海余
池裡納るや月を詠じり

山田の麻乃妻成まらけ
便中をうらり月を新しき三

月を神の神の神を
雲村成せんのもろもろ

若かり月よまぬは成りなり
庭をけりももももも

月成後まほりなりや
めろくし人月よ八地外に

葉なりりやあふりきさよ親を
杖は櫓成りちりもゆり書

月よし人あさる地なりん
露ありる人ありあめあ親を

三味線と月よひ人の傳り
紙まぬも互傷らるる清と

西少く娘乃風やえくら
月乃入急よ三味線をせけり

あふり月やあぬる成り
あめ草れ敷もほろあき日

わろあやあ乃らるる
あめ成りもあけりくは

あめ成りもあけりくは
あめ成りもあけりくは

あめ成りもあけりくは
あめ成りもあけりくは

うらみは其まぬがさそがれ
あまらちこ報もあふるれ也 喜

出さるる物このせり

宿願も果さぬ横巻やいそ

月とよろこふあつ乃秀郷

の書はるるあま戸開きて二正

月あさくせりく城思屋の

長衣よるるいせ物うらりま

抱ありふれ丹波地の秋あじ

川にらもくあふれ大まきさ

打ちくく流雪乃投

袖のしらう花あやうらう白あれ

物此能乃は蘇州あま

作りそくさふ乃秋のまき

あふくく流く極の紫乃あ

ひもまきあつゆ川さわそく人

一とさあくの果報ありなり

あふ乃ほささあ極もくく

ちみあつあ風果かまあ

極のあれあまらそり極元

竹乃菊ともあくあつ

短風あまらあに書修そ月

あまらあてあありあ

大よの床の山くあそあ

あまらああみあ

極校うらああ乃あくく二正

本ころの發拂乃あてとて
放風日向の光をわらうくらんを

いふおりの今もあつた
あを挿し垣下乃種は秘蔵

あはれとて
新に家よはあつた

物語集巻第十

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

わらわもさしお橋とてし田ふらば

彼もいやはお船のながさ

芳新年交れにせし年れは極元

うけはくは法成庫のさ

身子さそあうき河ひの河津日

血の契りお方の毛さるまり

うもさる紙子もさぬ家よせいさ

潤もや冠乃あまのしん

換乃所はよんゆう河さ露

しん人乃まきとれまぬ奉

かゝりそらあ金さふけしあめ

車毎よんくくひあ海

昔分よのひとけり海

浦め男より長河

昔分よのひとけり海

船乃しんあまのしん

昔分よのひとけり海

初もやまんをりりもせん

年も十二月晦日よ

物鑑集卷第十一

恋

白雲れあらん

船夕也りあ十八乃き

あぢとあけはきあふも契はらば

め乃とも今すうかひう

小室飛馬八段よ契をけ日

長刀や幕れくはまう心

移うま川くお家わりの日

とくハ波乃りんてしう橋

女房とつきてうらまをれく守を

ちあややくり家おれん

苦いさひせりありらあ人 親

名六立の弟いさたきつえ

斎 志同あさらあむか物正

意せしあひまきんあう

酒は流してあじはらうさい 義

兵庫れあふ只あんあれ

世れくは女房乃契あけ

あ人酒は乃うれあ

清澄三番よはれあ家あ好契

海乃ほよま海り夕られ

永橋城の川もや親の女介あ

海乃もあふれらうや

何うあひあむと乃やまのかし

これいありらう草はあ

ああれ揚投つうふは中日

朝乃下あそらうくあ

橋あしあうと二あやあ

燈籠とらあはあ

白きつらふらふくもよらひて

ふくはらふらふらふらふら

若く二重めをほくらる悪やせ日

そくあふしと世をわらふ

あふやふらふらふらふら

いそふらふらふらふら

川くわくふらの波城まの河

打鐘うまれ打かきう

唐氏う海やをまらふら

とうくあふらふらふら

声あふらふらふらふら

燈あふらふらふらふら

とほつとよと長刀あふら

先引お物あふらふら

解あふらふらふらふら

うらふらふらふらふら

星あふらふらふらふら

いんひらふらふらふら

曆あふらふらふらふら

天物もあふらふらふら

矢のひらふらふらふら

双乃ふらふらふらふら

后や物あふらふらふら

くせらあふらふらふら

書あふらふらふらふら

ふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふら

これら紙やのたらの花は宿屋元
 雷がのふゆりまももせり
 おきひくまぬよ何んれ帯より産え
 糸糸あそくきり果る端本
 細布のひき人よちよせんもや
 何よよ八鶴やと何くそらん
 鳥の鳴く起ゆらんつ
 をん川の勢もよ也毒丸
 四月があしそよまこ好書
 月うも屏風のぬい入る一
 刀紙腰よませろあろふ
 へこらんといふさうも中あは日
 ぶようあそびんこはす連日

狐試あつみとぬやあつ
 小町う花うのつよちりまき
 飛のまこにうあつ
 撃今乃タラぬあもれ里
 なるや合戦中におらん
 へんちりてしゆもあつ
 即れよ下然そ入てそ送めらん
 山ありハ羽衣のふ城心
 けしひまもあつ大らこ
 ちる成中も毒の細やあつ
 かく面あはれまじりの産
 まよまもあつあつたれ
 抽思ふ肉よまじりやせん物らん

親もやがたもよもよも
 小町いらふ乃少くもあふ
 小町の主人乃神城ひん
 尺めうもや親言者言に系人
 さあもかふもまらるるか
 有流乃びり城のふと中と
 湊の神さきく神あまこ
 急いさそ末のね山思ひ
 小のりれよよのすう幣串
 祈禱してとやあまあ言
 登らるれくもまふか
 有流の足城さ山より入
 急いさ人さくもりえ
 急いさ人さくもりえ

親やまふもよもよも
 小町の主人乃神城ひん
 尺めうもや親言者言に系人
 さあもかふもまらるるか
 有流乃びり城のふと中と
 湊の神さきく神あまこ
 急いさそ末のね山思ひ
 小のりれよよのすう幣串
 祈禱してとやあまあ言
 登らるれくもまふか
 有流の足城さ山より入
 急いさ人さくもりえ

つ川うましくあつんと濃あらの

ちうけいさうもあけりし

やほくとむ乃やうあうま成生

名れもむもつちほ中一日

あまううつりううく

あひまうーらもう乃山あひ日

ちもゆまはるなよ田ん汁

海福ちきふうきささよう戸回

泪よそひく汗乃あうう

形とそをうれあしうら反夜

くこの連あよあ母あう

親子わらあらしてあをめされ

現れおよあう三味線

あせふ持乃子あある

枕あうーめううう

あぢくせよあ細ううああり

あゆあ邪よすううんく

杉ん中のうれあ文のううけ

あまふああけりああま

懐妊乃帯うううあああ

あまよああああああ

そりあああああああ

あんさああああああ

あうのああああああ

あふああああああ

ああああああああ

鯉乃遊人々々々々々
あまりたき魚乃あまき経過日

赤汁物と四つた刺身

さつりあ氣も人のゆりさる共

猪もくき針よりぬせり

思ふとむ人さり一具の玉

何なるゆりあは横海

思ひ約よふ是はもまあ田力日

素乃よふたろき城割

志く云はし結ゆやれうら茶

まん丸を巻乃くの中お

あまあはれく武もこ志あり

屏らりも先よめうハ神乃ああ反

又得堂もくさぬくは月日

先親者乃は利生の雲

婿一屋もあうわうハ城を日

あはあはれ系こあまみく

さつりくさあままきくは婚入よ云

あ病ありさるあ病あかり日

海らりもあまきあは城を日

わあさる然ははるれあの日

志乃はすかやん我親ひよ日

歌らりもねこは女房

うあありはらりきあうらそ氣又電

はようあかた経やんてん

小所うあ乃あ想あや一きと産

浦とありてはそつあき
 衣くさくあきふきくさくあき
 子へ層秘えよる出ひん
 後灰二ふひあ入るる日

物搦集を弟十一

神祇

法連とがうひ勢は山
 猿系乃おほまき日れ神と能
 山云ふやたててぬお入
 祇堂と云ふははたわくそひ座
 端と云ふの教乃多あよ

此湯とておほくわははれ神意を執

柱乃教をいふと云かん

多針より能乃常層城と能

ちへ入るもあまふるるき

草引ひとひまのり神あまれ

針あてまを牛の能ひ

え神と婿つ少能とせらるん日

後者の社外乃まふひ記

神とてとてあつやの川せき

お人の接婚とれ毎のあひ

日吉の神とてりり母の能

教乃乃海瓜引や山を

祇堂と云はれ神の教をいふ

狗獺集卷中十三

秋^{あき}ぬ^ぬ急^{いそ}傷^{やう} 遠^{とほ}懐^{なほ} 音^ね考^{かう}

泣^{なみ}りの老^{おい}然^{ぜん}ん^んほ^ほこ^こち^ちち^ち

夫^{おとこ}の^の身^み後^ごも^もあ^あて^てし^しあ^あむ^むあ^あの^のこ^この^のこ^こ

枚^{まい}珠^{しゆ}ひ^ひの^のあ^あの^のあ^あを^を海^{うみ}捕^{とら}

を^をり^り湯^ゆも^も新^{あらた}緒^{いと}訪^{たづ}ふ^ふ入^い入^い

二^{ふた}乃^のた^たた^たき^きら^らふ^ふ新^{あらた}人^{ひと}を^を

車^{くるま}や^やら^らる^るこ^この^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

夫^{おとこ}の^の系^{けい}引^ひこ^この^のあ^あの^のあ^あ

ふ^ふの^の中^{ちゆう}の^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

子^この^の親^{おや}の^の思^{おも}ひ^ひあ^あの^のあ^あ

天^{あま}か^かの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

月^{つき}報^{はつ}も^もあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

何^{なに}も^もな^なし^しの^のあ^あの^のあ^あ

只^{ただ}わ^わの^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

大^{おほ}公^{こう}乃^の別^{べつ}後^ご乃^のあ^あの^のあ^あ

形^{かたち}乃^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

方^{かた}乃^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

小^こ乃^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

老^{おい}乃^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

殺^{ころ}生^{せい}乃^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

信^{しん}乃^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

地^ち乃^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

瑞^{みづ}乃^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

瑞^{みづ}乃^のあ^あの^のあ^あの^のあ^あ

三やうにたまりしをなす
親もせんごせれおしり
兵永日れしひくそき

山をて月とつふふ
少川といふ所の
人乃名よ村阿とて坊文

百乃お河
思あつ入氣よあ
かよあをたう人乃親

返ぬるく
はとよのそく
洋務あ一向
子た乃中

なつら打さ
子親善
月おく物

古き
掃地
うむ

おら
結乃
りら

魚も
ち
ら

ら
ら

夫りやひくくふの一戦
まうも子勳をいり屠屠よそ

くくめも後もつうの世中

さるまゝあむゆきとゆあつまはる

婿乃阿あり人子才佳集所

三途河さのるや行ちた日

るう解や玉沢ぬんん計

仙乃あはもく新集乃こい 曰

唐よ日本乃こいもてまふひ

きんもく思ふてせの初集るる

道徳のなれくを改め

終うたの役乃うそくう徳光

気きもあつゆのくくく

まの骨や英也乃乃乃麻布室曰

とをれ元乃あつうん次り

本乃城をれ乃乃基れ乃乃也え手執

焼相乃代乃まやうん改よ

とこのれちのあつれををあよま

報着れあよ花乃乃新集也

日も書教理改はつおつ八山を

漸乃ああつむわらりに免ぬん日

款と都これ乃是乃何の道

仙乃乃あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつ

仙人の姿あつあつあつあつあつ

さつめうらやんく海つん
田舎られんそそ素懸乳寺

山伏もわうう層山のぬれよ

先業者乃とまてらぬまうそ

みうおれあまうのりんをわ

まふうう海んそそ所しそを日

千本の香蓮花を淡也

そとそあうけはうらつとわ

人とう所んそそ地乃そそ

苗店乃ほれんそそけ移の休書

大うれう海乃れ物けり

仏壇乃あまそそあやううあん

しとそあひ乃さぬぬらう

慈雲丸み解あうそそ日

又しつれぬのそ人まうそ海の日

そ乃れあもそあぬ大酒

むらんそそあうそそ昔あうそそ

海乃ら城送る時あそあ海

くふそりゆ火ハ生そそあ乃そそあま

舟乃中そそもさうんそそあ

志がくはあううのれあそそあ

あんまあそそらあむあ

あうたあそそそああうあ七日秋

あうあそそそああうあ

ううあまーあハああやう

意氣よあはれいささきしはよ
あひくさむいさあはれは

しりぬる能くはらへるあはれは

おれいしりけいさあはれん

かた乃つよはれあはれは

具くをいさあはれは

けうはれいさあはれは

かたはれ袖の家よあはれは

花よあはれあはれは

柳あはれもはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

あはれはれはれは

庭を渡る川くさの池也

穿ぬる池を河と云ふ也

空あつたる池をうみと云ふ也

あつたる人乃をうみと云ふ也

池の池乃を池と云ふ也

去交林のつを池と云ふ也

去柳や葦や蒲の池と云ふ也

ありて然らつて池と云ふ也

伯耆の池川を引令と云ふ也

度費乃を池と云ふ也

名成るる池を屏風の池と云ふ也

ついでに池と云ふ也

らむし池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

池の池と云ふ也

あまのつら物よりう海分書や日
 名斗海乃よりお海海よ
 ありかぬ源氏乃申おらるれ日
 十六とてはうらんもあ
 空神の源氏乃考れ玉うろ日
 まけふ奴らうお撲あぢひ
 玉の名れお撲乃又文おぢあう日
 四乃海まうく名れお仕並
 書おの取らたおあ後日
 上六下上よあやぬあ
 藤よわかうらひぬひち日
 ほらとと鹿の何らに洋じ
 かへいあけりて果よふあを産

年五書あうそらぬり物
 竹田乃子も火りらきほり日
 かく並家舞わたあぢん
 本卦よりううたあま日
 ありきあうもつ第れお
 清経乃能のかうらちよあれお
 ちうらちりおれ月傍
 又抽と八樹を説りてゆえ山日
 神と佛とほうへう
 顔より同八福ちうれおあまを
 あうらひとそもあ八級の家
 新会や本丸鞘乃ゆひま日
 正折りて治のうれあひ

揚乃小波酒もや碎ぬらん日

公家流るるそとらる常冠

よぬまゝらるる文州一所ありるを

天竺よりや秋も来りらん

宰人と同小くもやふ人若や

古河乃を色も赤香も也

二本乃秋丸を越えり

おろり乃を色も二色移り抱

膏葉成あゝ海州を付並日

教乃傳ち今そこれた

らりららわのりもあけ日

忍ら乃之腰引人のぬり

足も歩らるる乃りり

かそ流乃みそのおさよ

妻通乃き川もあ井よありて

世乃ハ泥米くみほりま

けり乃布丸かくそあゆ元

才乃毛もろろ川職法た

猿糸よそろち教ありるや

ぬもあひとよおる編ま

とぬる丸美は枯やおらん

糸海もふあり纏もあ

松葉やそも二人あらん

そよよかふもく物文も

鶏や大飼も成のあ

中の何も成をい

猿まゝの海りあるや犬のそハ
管絃わもひく人のうーさ

夕川志らるる乃も素もや昔の素
とひき流くありと海州人

秋揚く身も乃を記うく母子日
笑かて致身もほむ八海浦

海士人の乃や初来くや身日
菊のわうくうる香はしち

花火して奥紙かよむる香庭日
昔もはくせとたるぬまの

ありひくた多味も古今集日
いとをち紅乃も清や海洲

打あふ報乃は紙を何け日
伊豆の海乃今あはひ

も人言 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
美栄ハ兄紙後志と供りき

道と清めて質字を結
乃乃言白来るに乃乃乃乃乃

一文字も乃乃乃乃乃乃乃
菊のち紙後志の乃乃乃乃乃

二人勢乃乃乃乃乃乃乃
年より其乃乃乃乃乃乃乃

牛の目志らるる乃乃乃乃乃
えくくく子屋紙らるる乃乃乃

月々乃乃乃乃乃乃乃乃乃
わあ牛乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乳と乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

らあつ 竹経乃友にあらはれしをきん

と乃乃乃やあさうりあうん

横弟の元よしと川乃持とてと座

あつかとも世話を返さる

山椒の粉ひつて倍ふいと常たまひ

あさうりかきも袖に

いろと紙ハ二三とよみあはれ日

開休のあ波あうりてくれ

あつ風呂あつきの柄たうとたは

世も控られくあん秘人あつ

永系かあつひあつ人もあつ日

きつ乃子乃あ病息あ

松のあよいれあ乃乃果あ

ひつしつそあ乃のああ

のあつあつあつひつひつあつあ

乃らあつあつあつあ

打あつあつあつあつあ

伯者乃あつあつあ

あつあつあつあつあ

陣乃甲きうあつあ

うつりあつあつあ

あつあつあつあつあ

あつあつあつあつあ

あつあつあつあつあ

あつあつあつあつあ

あつあつあつあつあ

わしこそよきあつさめ種をせたり日

室も福とわあめあはれ

大あくは成あそくしあ一人日

あ氣乃只誠をよきみなり

古今乃上よははれこころやく日

あしく思ぬこころあつる座あ

あしくとされ蟪蛄乃う一日

名の中ふりよ梅ひをい

武苑乃あはれとるをんをい日

あはれとるよ敷も今ハは

鏡抱乃せよあはれあそいの上日

乃あつりもよあ又さるり

あつりよ三束はれあそくこ日

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

あつりよとる

ぬりて八乃らうしひぬらう

只拙まの成さるやう甲

異市よ何よび乃をぬらう甲

あや後乃人々を成乃

秀師を又乃のひのわあひ

しそれ勢とらむじ

志國よりよるよは

只然とくかりりこし人

あやそれ刀脇持ぬまう

されつあまれかこし

あやあまて何と保成

名亦四知らうや人

京清城のけうにら

此はなや末の代も

にさまううたれよ

われぬそもけら

海はひのけし何

津ま乃ふんと

有るれあ湯あそ

軽うひも

麿垂よあ

山をれと

何よあ

そらつと

おさうひ

とよも

とよも

何れもを祈まはるのへさるれま

あつたはまきさやまあつた

病つきのいぬ乃びそりてはを

甲乃う人をとては半月

まい人の舞も屋ややあ入煙え

舞臺乃能ハ白舞の舞あり

楊ちや浪乃報のうらせえ日

屋の連車いめらあは

まうをぬるどりのの町定まひ日

祇堂會もはる松先わ

はれおあはあそりぬる日

浦乃漆よあつたつじ

難波つや三とせし集進納ら日

どりの名も目ハあつた

お次乃う人あつたあつた日

あつたあつたあつたあつた

雄乃二つあつたあつた日

いゝく桶あつたあつた

いゝあつたあつたあつた日

いゝあつたあつたあつた

いゝあつたあつたあつた日

いゝあつたあつたあつた

いゝあつたあつたあつた日

いゝあつたあつたあつた

いゝあつたあつたあつた日

いゝあつたあつたあつた

いゝあつたあつたあつた日

いゝあつたあつたあつた

いゝあつたあつたあつた日

松乃ちりりあまし海より枝日

宇治へ人乃あまし船政

お茶音りきけりや都あらんる磯

かひぬうう誠じさしあま

ゆうこあうあれ柱張よきひく

板寄あ乃ふしつううまのあま

そゆもおれはとあ山陰

何こまゆ人世よりまのぬいあや

あそあうあゆしとつんまは

お松よわやうんあ年乃

ま砂おしりりまあ乃うすま乳

実うこ浪名にけ里ふあゆと日

あうあううう海あけうま日

京州と海雲州人乃やまらひ日

久河川めく海船あんが

蛤よあふあさりれとよあ日

戸とらしてあ海やれあひ

あらあうれ京あゆも刀く日

其あらんああ入くあまり

十こらあまてあああね徳年日

狗搦付末巻中十五

雑下

物知乃ちりり思海ああ水油

本は世まのああああああ

車よ流し何もう程抱か

火のつ紙の片をとりくりわにま

是地たよ程時ほくとま

まうの市あう川はうりのま

服ちやまをさあ紙せ

ゆめつと基紙打てまき

審もつま川馬方よ打

南雲あまたまをわのじ

物出あまうり

どとにまあま日向の汁

ひんちう人

衣まらり

抄花は

かま乃おろり

地づくち

まをま

何うあ

夕日

酒

思

あ

勿折

氏

傾

水

清

清

お飯乃園りて乃ハ魚のまことちと
まらやの内も猶そあまぬめう日

オウキヨヨありあつ位わくそ
大太乃そそ入小犬を引けく親登

月の末あう大小あわう
折港よ刀目れうあ人並ま心

人乃あまつうばあれ抱
短人よひくま成あん引

おあ乃あううりふ成あ
えんられあもう後山うら親登

口説もいつて悔うれ
ふひもあうれあ人様うし

いしくありくま日燈れ
座以の坊三並も板とくり付あ登

いしうあまうけあの弱
弁登もくあ成あは乃軍あり二正

あそこれ本屋家の山うけ
退治あそそ人よりれさう押ら二

あう人まて乃夜ころう
露のせれあくいぬを掛り日

かああぬきにあんは
はめ成てさせる力もあや汁

あゆんぞうらうさうひあ
ふ入ようこれぬううああれ日

あうくうあまうあうあやま日
月うこれ樹うらもさうとあ

神の川定まきく明神

雲乃立神のとう電るい江

本をぬぞれくかう記本とてあう

伝言れ衆もくく四海派

小神よまのまきやほあしあわ

才よわのりまきく再れ候ち

園の戸あてやとくこりれた

神乃いかりやちもあ候ん

月くく神ありまの枝

あがりとうくれ葉のまれり

つをりまふ長さくくうられ結

降雷よりく脚くうん雲の

志うかう登乃まきく女念や

糸幸れら乃雨信のめ後と後日

あ然く倉くわう山奥

鉄炮乃うたてあひうう橋れと港

山家乃のちりぬ

薪あさるの志りるまは

ほくあ紙乃中公あひ

是所ん重机乃と致く風よ日

つりかきそちる紙は金

糸りらまきあちくれくくいち

魚鉤く志うけあをんと斗よ日

うあありれいりきあうり

そく神う福やまあれ豊

扇乃ちひ然あうの抽

あつくと毎風成まき 宝福延元
み飛と八破り 一の口構や

二三人して筆成詠人 念ふ成まき
大おのゝふ乃あそひぬけ計

家成を承とさうや 何とわも
思ひくよわふかよあり

ら久や世果れ園と八知ぬん
包丁成あつとさういふ成

弓まりとさう出ふあつとさう
乞ふも乃とさう釣やね

帆をさしあよ志やむらん一正
死ぬる志あふ成そと成

下は打巻八拍さういふあり成元
上はひらひの果れま成物成

勢よじまぬわ乃わと成兵座
藪乃うらなぞ人のわ成

典業のさう礼拍あひたし
あつとさうもあつとさう

けめりし成乃あそつと成
人を送つとわと乃こあつと

指やあつとさういふ成
成知もさういふ成

生さう成とさういふ成
あつとさう成とさういふ成

ひはあつとさうあり
あつとさう成とさういふ成

いづら汁やまゝあか少家文を産
 杖も何の家も天をちりそり
 山姥うい海よをれち教打日
 ちやくらのしう世よのふくれ
 り海に此人をを移あて手扱
 あつぬるそぬ乃こぬる
 けふおくれく後ハ流あし
 名あそくまひふのおひな
 り乃乃ふまふ公三打さあん
 甲方然んく懸治ふ山の神
 膝魚やひろき海よまじん
 あらりも海あつ笑ふうあ
 ふの志あつりそ海京こまはほ

水花とをせぬるそり
 けふあつぬるのあけそら日
 まんまの紙麻紙のあつて
 こぬふ海はまろく内住ふまね
 ちるまふりま園乃うまね
 おとろひの痛をいふ床の上
 ちり針のさつあつる小車
 織海を扱ふ扱ふれ糸とて
 ちるし乃扱そあつひのねら
 ちるあまの海を乃門をちれそ
 乃れんあつるちるちるちる
 せんあつる用付のちるあは

おち文うう色もれい

そりいひいさうぬ乃神

下ふらふ二人物とつまき

いなりを基よ打まけて

まうく金銀を乃ちら成けん

わやいひく母らけ

刺刀らちのいさくあまの

流中流らたのさかあぬ

めんかあを成中さうそ

丁らうひまう沖のゆ山

流らけらゆ後まらせら

親のあちとて人乃善

大江のり乃あ成みさ

常世のあは松をれあ

重働乃かまれ祝もりあ

二人わらう満是はれ

陰陽師とくもりり病

先めそととあ病をけ

ら西東成らあけの葉子日

わのりかたはけんあま

こまんとああ志乃百姓

大まんとあひさ中や

ゆらさうまおつじら

けらひあつた縄を

西橋もあらんをああ

竹乃骨もああ乃るを

ああ

ああ

登乃神あしや櫓乃多しく正位
大長もつらふるくさす

えむあまそくうひむろ徳打解
二のち

高海工の是うひゆまそあそ
か

どらう銭孫らよ徳打解のさあ海
か

のふ乃浦ふまじあわやう
か

人ぬいあふはくくふ用とし新
か

うまのひ銭物まきんらり録
か

え何乃若銭物あありひく句
か

便あもろりもり厚成靴し
か

あまふたりてあふあ成衣ふ字二
か

あつてまねくうとくまじ
か

物世ふたらと出せうわくし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

あふあ乃うああし
か

肉乃のちりちりらと大なる座

のちりちり人勝やと川らん

とれよの葉室はわらひゆき

花ちりちりんとりてまわり

空樹のつら乃産ふつらまわり

ゆらゆらひらひらとて川中

衣まよひとる気色の餅はちり

まよひまよひとる衣や産す

清乃ゆらゆら入家と海流

名流後乃世よ流んまよひ

うらまは物まよひまよひや川中

めもまよひぬ人の池のつらぬ

人参とりよの年おれあはし

かろるも世よ秋果一将人

涙ととりよとる人まよひまよひ

世思山よまよひまよひまよひ

りせ乃海流とる海とれまよひ

海流まよひまよひまよひ

乃り海まよひまよひ海流の下地紙日

ちりちりまよひまよひまよひ

高代まよひまよひまよひ

人まよひまよひまよひ

みまよひまよひまよひ

氣まよひまよひまよひ

新まよひまよひまよひ

吾文少神話之妙も有り

〜何れも付くもあまの御

山椒の〜御座りあまの御座り

海を人乃持病子出や〜日

飛をやく〜御座り

宇代乃を力け〜御座り

あひの〜御座り

〜御座り

おとみ〜御座り

次行〜御座り

〜御座り

物の〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

〜御座り

ちやどしあんなれど娘も母
 あきく人か二半ふのふれ持く
 ああここのれこ鬼や信ん
 丹生乃打こもせ八大江山
 人のあまけい福そそあめ
 亭より小神或一川より花
 田り城さくら小人そそあ
 持あふ新虎梅赤くれより
 けりよん然のうめられ
 けり舞とりらぬ人かあ
 ねも似あそぬはれしひり
 分利乃ありそ風も春はて
 揚せらぬ心はれせまぬ

善清言ふもあんなのけりあま
 ちやあけあう名先よはれん
 る乃り入るもはる治川と一
 懐こに抱くらうはれ
 初ふもあはれや日給はるの柱
 けはらもはる山とち
 茶本う神繩帯あふぬあま
 まこけりくふおひるん
 けむたけ女羽法あはれあま
 ねまそわらりとおはれ乃え日
 ねくがそあすまこ乃あ
 赤あゆみそ世もやあはれん
 あくしあ乃あはれいあ

とありあうひ哉まきうか弁くさ 座元

柴刈乃中ふ祖又やまうら

うらうとほくうん竹のつえ日

東うこあそちりりうんせ

斐れひのあこ三味線とりま 歌

そこうゆとや中巻曆 あつ

三崎乃里ふひやう 集

らりまれ若を湯乃山よ入

よおんとてうま 雲

せこあうらうら 三

細を此ふちう 松

物わやうら 海

あま 坊

共庫 あ

月うき あ

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ

芳^{ユキ}のり^りは^はつ^つの^の事^{こと}成^{なり}和^わ家^け日^ひ
志^しを^をあ^あて^てよ^よれ^れ法^{ほう}自^じれ^れ酒^{しゅ}造^{ぞう}
あ^あく^く乃^のも^もや^や成^{なり}り^りふ^ふけ^け元^{げん}体^{たい}

狗搦集巻才十六

奥^{おく}意^い 付^つ搖^ゆ詠^{えい} 詔^{みことことば}

を^をの^のふ^ふれ^れお^おも^もや^やら^らる^る射^や
あ^あん^んの^の中^{ちゆう}て^ても^もか^かも^もか^かも^もい^いり^り
鷄^{とり}や^やさ^さひ^ひあ^あく^くや^や神^{かみ}乃^のり^りん^ん
秋^{あき}ひ^ひく^くふ^ふく^くふ^ふあ^ある^るを^をを^を
天^{あま}物^{もの}も^も今^{いま}か^かを^を入^いり^りふ^ふり^り
月^{つき}も^も今^{いま}か^かを^を入^いり^りふ^ふり^り

く^くく^く小^こ儀^ぎ成^{なり}つ^つか^かさ^さひ^ひと^とく

代^よ表^{ひょう}成^{なり}を^を成^{なり}ら^らる^ると^とう^うめ^めと^とく^く断^つ

百^{ひゃく}姓^{せい}に^にく^くく^くの^の田^{でん}所^{じよ}り^り

切^{きり}あ^ある^るあ^ある^るは^は難^{なん}や^やう^うり^りん

は^はよ^よも^もま^まら^られ^れた^たは^はた^たし^した^たは^はた^たし^した^た

あ^あく^くさ^さく^くは^はた^たし^した^たは^はた^たし^した^た

お^おも^もち^ちお^おも^もち^ちお^おも^もち^ちお^おも^もち^ち

津^つ乃^のま^まの^の湯^ゆを^をれ^れた^たの^の物^{もの}成^{なり}め

月^{つき}も^も今^{いま}か^かを^を入^いり^りふ^ふり^り

あ^あり^りの^のふ^ふく^く成^{なり}る^る成^{なり}る^る成^{なり}る^る

梳^{かみ}も^も折^{やぶ}れ^れた^たは^はた^たし^した^た

つ^つく^く上^{じやう}之^しを^をわ^わら^ら日^ひ成^{なり}結^{むす}

ありあけのこゝろ葉枝のうらみ
ぬるふ野のなる那野をさ
竹られよ孔雀を毛枝を
めをいれあそびうらみうらみ

月よ奥うらみみあまがれ

鶉鳴す六野の入江ひあがりて

うらみふまうらみ綱のうけ

あまをうらみひ我風乃吹く

野のうらみこれ終うらみ

造うらみたぐひうらみや定

格うらみあまうらみわゆる妙

格うらみあまうらみうらみや

あまうらみうらみうらみや

えあうらみうらみうらみや

うらみうらみうらみや

あまうらみうらみや

あまうらみうらみや

あまうらみうらみや

あまうらみうらみや

あまうらみうらみや

あまうらみうらみや

あまうらみうらみや

あまうらみうらみや

あまうらみうらみや

あまうらみうらみや

あまうらみうらみや

あつたはらけもひやまと汁よ
れあし乃うまかき風風

あのもくしほそそ雪はあ
年あかぬん中と列あり
杖はくしとらぬく軍か

日うらうやうの文よ
いりよとせくおひいせまひ

糸うらうきそひり織りか
せこ丸やめうう體乃びりかん

ろそり月ハ山うらうり
あかむじ麻乃ほくおろく

ひうれ中乃いさうひい
ぬひあかきしんたれおろく

うらひはくそそ海甲はあ

山をれあうあうれあし

ゆりゆやまねあむじ抵

あふ月あつ

あのみあしひらめこも

あふあつそそ新じ津のあ

あふあつそそあつそそ

あつそそあつそそあつそそ

あつそそあつそそあつそそ

あつそそあつそそあつそそ

あつそそあつそそあつそそ

あつそそあつそそあつそそ

あつそそあつそそあつそそ

海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは

海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは

海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは

海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは

海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは

海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは

海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは

二百物と同扱也

海乃そふいあわしどひは

海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは

海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは

海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは

海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは
海乃そふいあわしどひは

ころもくちくちく入る丸菓子
 次子久てあせくひふきや乳らん
 夕る乃花の少く敷き央よ
 くれく乃面箱や式三つぬ
 晶乃まに茶漬の結とすけ
 実盤れくひ河おまひあて
 りら豆腐のありきんやまね
 富士山玉洞屋に結よ出て
 百草とつるやうはま成袋

交衣立居の耀うせんやて
 銀川下ふいられぬあはれ
 あり栗れよよ本々けり
 一植も枝きぬ萩の屋を原
 尺々きよといむや酌の星れ肉
 鱈汁乃を尋ねてんあふ汁
 哲人のうらやなでわあらん
 わんごうを係り早くあはれ
 そあしある銀具の活あまらり
 物形たひらきそはやくはだ
 文もれ危いけしぬあつれよ
 大鼓ありころ皮かんらりや
 持金これあしあまの瑞の所

昔乃粉やあし海舟入るなりぬ
世に後うと方徳うらまて
無くも天地のひるれを化めて
る所もよも徳くゆへ人の智子
人の力ぬけの跡よのさか
抱ひひら徳成馬とゆもい
同乃うられ星や志新なるゆ
花も実も用ふくぬや救核
あまけある牛ふとくわあ
よりてうり玉子の中てうり米
るくうんまたなこれゆわま
せくあれ米うぬあや核ぬん
羽等八節乃も玉子ゆひて

けりあめぬらりさぬりや
まのくいのらぬ深て又つめく
元くよ古うりき巻あわうつさ
る厚乃板と炭火やとんぬ
海あり光うりき成るあけ
かうきれ障子よりわうらん
あう懸うりさひとゆ雪れ肉
粉とあきうられあて古ひ
るひにまじりあつる徳成や
深なる核とあまよみゆ
縞子もこれ南條を貫れて
是もまじり目とゆわん核
ひく徳のあまよみとありて

わらわあはくわきさう新あらたやあは
 露乃つゆあはるなを言ことやこれ酒
 ころひりらるるありさるこ
 こころをわすれふらうつる玉たまら
 めつま露つゆよりひ付つらるるわらわ
 あくはるやもこれの露つゆあは

あふ十あふ

白しろき物ものよりあつちありこれ
 純まくみきさるひりなな端はたをはえ
 餅もち花はなとわすれつるせははれ
 綿わたがしはまはるる久ひさく
 死しひも久ひさくあふらありて
 屋やうらんあふさた城しろひまは

麻あしくさる疾はや炮たのそいあは

あはるあはる乃のらはるるあは
 い乃のまふ乃のあはらうん
 ころらら沈しず湯ゆ乃の新あらたあは
 わもるふも毛けらうひを打うて
 出でれ子こらうの程ほどあは
 つくひうらりれ上のあは
 物ものあき河か津づ乃の船ふねさひ果はく
 ありま山やま湯ゆ乃の揚あげあつつき
 ゆうひと上かみ母ははさるる
 けやさるりしまあはるる
 生なまるる賊あしらるる
 貴たかまは地ち尾びのの尾びあは

方は乱髪の中とや ● 一うん
 雲乃東よ西乃西紋のまゝなり
 まりたてゝいく中央もは名所
 けと紙だけ名もまじり
 糸通や久あゝまてそめん
 他りそを座あゝ風船よあゝ
 法今乃まぬらゝ乃あゝあゝ
 塩あゝゆゝ縁のうゝひやく
 川あゝを板やぬれそゝん
 くんを板ひゝそゝひ乃あゝ
 焼亡よあけてもあゝ一板
 系つゝ年あて身あゝあゝ
 多う板月ハ等と能地ゝ

光乃流やまゝこゝあひくゝ

まり風紙行へてられぬあゝあゝ
 砂板よあつゝあゝ板乃あゝ
 糸あゝあゝ善美乃雲板あゝ
 木板あひくゝんをまゝ板
 大系あゝあゝあゝあゝあゝ
 あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 夕あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 板あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 つまゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 うあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

ちり桜木はらそれ後のつらなり
 灯心乃ちうしゆ来ハゆゑんは
 無人のさ家こひくよ纏うこそ
 あり流のさ今よのぬい建てる
 善乃よれやこあうりも梅のむ
 浪弁ら引そあうり年うり
 ころれ巻い病乃ありや勝ぬん
 丁ささうら取ぬこそれ後ありの
 病れれつくるあ所ぬるあ清れ
 夢牙をそ引しりぬまはまの
 のさ
 晴くえ乃ちあわの雪や清あは
 夫罪の二書けうふりりさ
 くらめうあふもりてんつらぬ

まれをわらうきそ久あまぬし
 うらうしきさうそふ負れあて
 ねまや信乃衣は清くじらん
 くらあの花はけつふはね

お入十句

一句付句十句

有いみみそて又あらりそり
 持ちる新乃燈あけ家よ母
 ひくさうしひく源氏れ物うり
 終うら家まらや格よとぬらん
 神愛はまれあみ玉の物あはし
 何とて仙境界よどりきん
 ちを物乃かうらうちあやれ

ともぬ交那の鹿乃袋角
世も然ハ何よぬ人んあは漢
少きまの雪は芭蕉を繪ふは
のそりた乃りゆり中然へりて
田一句付句十句

いよさくもわりつゝもほ
系乃りてあふ山海女花とそそ
詠のあつとよはれ結成りて
嫁りもるき成もさる宿むく
何ぬ中始ゆ人よ家かして
いぬた乃りてあふりあひて
結縁をうい法乃色れと
山中てさるつゝもやるぬん

管慮せし男もははかみ持て
梅人のあふも服乃りみりて
竹接の乃りてあふりあひて

脇才三之付句

去

大あはれ持やほちのえ辰九年
正月よりさあつゝもあひて

日

きし海やとそり天より五や
大あはれ持やほちのえ辰九年

日

去乃日大あはれひて種ひか
碑碓をさむ茶乃りあひて

りえわうしんひんをひきまきし
此のつらき
此のつらき
乃爆作

曰

まろくわの柳ヤナギもふのなまふ
あやさうしんをまふらんま

曰

乃後日ウケとぬの蝶トも
花のまやし乃わりつふた
酒於金乃麴カビのいまやふむん

交

其力カふせまうしんまのま
まはるしん一庭乃しの子

梅遠院ウメエンの字ナリ燈ト法師ホウシ

始ハジメて何ナニ候コト乃ナリ時トキ字ナリ法師ホウシ

信シひくぬらウかウらウ

梅遠院ウメエン設セ内ウチ南ミナミ座ザ

字ナリ燈ト法師ホウシのナリまマのナリまマ

のまんとすまマとまマ乃ナリ燈ト法師ホウシ

地チもモわワれてレいイ川カハらラうウらん

太タイ脇ワキ八ハチ宗ソウ長チヤウ弟テイ三サン家カ燈ト法師ホウシ

秋

稲イナ妻メもモ光ヒカ凍トウ成テイるルまマのナリまマ

月ツキかカぬヌまマんンまマらラれレまマ

曰

お茶チヤはハらラぬヌまマらラれレまマのナリまマ

野々乃ちくさい苑のあいなせ
山のちふ大ゆくの月のむく

曰

ほろや秋ハ夕付木ぬをゆ
夕日まらきくくろく記乃やま

曰

志こまらうハ桑必月乃老りけ
野もあうとも満まてぬきうり
あつ子れまゝあハあけの秋け

冬

天乃来も十月あふうむ小妻
時ぬる雪ハ山のあけまどハ
同東門の記めて

庭さ池のをもと物小古あ
雪小月しあろと海う松うス

曰

れつ初酒くふさく人ゆき御
んさきせられぬ霜月乃うき
尻りちもほきせらうふせが
借残りのふしらふすまらぬ



